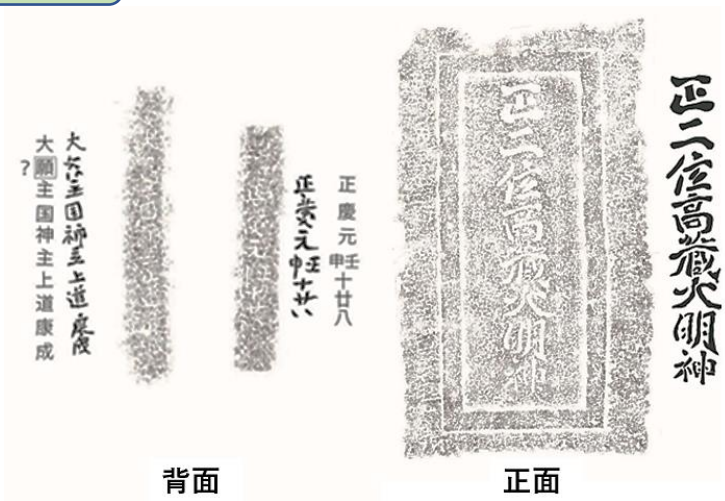
エンジョイ本宮高倉山シリーズ⑧

植田 章夫（旭）



前回は本宮高倉山の磐座と高蔵神社についてでしたが、今回は高蔵神社の歴史についてもう少し整理してみます。

高蔵神社にまつわる史実・言い伝えに次のようなものがあります。①上道康成（かみつみち やすなり）が神主を務めていた西暦（以下省略）1332 年に高蔵神社に石造りの大鳥居が建てられた。②天正年間(建てられてから 250 年程後、1580 年前後)の大地震で鳥居が倒壊して放置された。③宇喜多秀家が城主となり岡山城を築城（1590～97)。築城に合せ 1590 年代に旭川を天守閣の東に迂回させ、堀の一部とした。（突貫工事で現在の石関町付近に石堰を造って迂回させたと思われる。おそらく領地内から大量の石材が集められたと推量。）③石関町で井戸を掘っているときに高蔵神社の扁額が出土して（年代不詳：井戸という理由付けの真偽は別として、石関町から返納されたのは事実と思われる)、高蔵神社に里帰りした。④昭和 43 年にこの扁額は岡山市の重要文化財に指定された。⑤昔は太戸の旧採石場前の道から今の参道５合目を経て神輿を担いで神社に上がった。(太戸から参道があった)

以上、全部をつなぐと、次のようなストーリーが想像されます。「古代吉備国大王の末裔である上道康成によって 1332 年に建てられた高蔵神社の大鳥居は、遥拝所周辺の街道沿いにあったが、1580 年頃に地震で倒壊し、宇喜多秀家による岡山城築城に際して石材として石関町付近に利用された。時を経て扁額が石関町で見つかり、高蔵神社に返納された。」

この扁額は現在も高蔵神社遥拝所に保存されており、毎年のお祭りの際に遥拝所本殿で一般公開されています。上図は 2020 年に岡山市文化財課によってとられた拓本です。小さな神社ですが、備前国総社神名帳によれば、吉備津彦神社等と並ぶ別格九社のひとつになっている、格の高い神社なのです。延喜式神名帳では従二位と記述されていますが、扁額は正二位へ格上げになっています。このあたりも上道氏が鳥居を建てた理由かもしれませんね。とてもロマンを感じますよね。リフォームされて美しくよみがえった遥拝所にお詣りして 693 年前の扁額を拝んでみませんか？

次回は本宮高倉山の登山ルートにもなっている牟佐山についてご紹介したいと思います。

防災用土のう置き場について

出水期となりました。改めて町内会の防災用土のう置き場をお知らせします。新大原橋の下（地図参照）になります。昨秋、皆さんにお世話になり、約６００袋の備蓄ができました。できるだけ劣化を防ぐため、ブルーシートで包みロープをかけていますが、お使いいただけます。　（町内会長）

ダム放流に注意!

みなさん、旭川土手沿いにあるこの標識をご存じですか？大雨の時、サイレンの間隔によって放流される水量の違いです。大久保地区から約30km上流にある旭川ダムから放流されます。1000㎥/秒とは毎秒25mプール約3個分の水が流れていることになります。平常時は発電や河川に必要な水を供給するために最大で60㎥/秒だそうですから、いかに大量の水が放流されるかがわかりますね。サイレンが鳴ったら放流する合図で、徐々に川の水が増えていくため、河原、河川から速やかに離れてください。近づくのは大変危険です。　植田 洋子（旭）

編　集　後　記

今回も無事に町内会新聞第４５号を発行することができました。この新聞に「みんなの広場」というコーナーがあり皆様の投稿を募集していますがなかなか思うように集まりません。テーマは自由ですのでお気軽にご応募いただきたく何卒よろしくお願い申し上げます。　（電子町内会運営委員）